

うるおいとやすらぎ…

環境にやさしい三田

環境

ごみ減量化・資源化計画の実施	240万円
全市域の古紙回収	1,380万円
資源ごみ集団回収運動の支援	3,630万円
公園照明のLED化	910万円
景観形成の取組み	450万円 など



議員がきく

Q ごみ収集について、古紙回収業務をシルバー人材センターへ随意契約で委託したり、市直営ごみ収集について1車あたり3人体制で行ったりするなど、コスト意識が低いと思います。

A

シルバー人材センターに古紙回収をお願いしているのは、高齢者雇用のための福祉施策です。また、ごみ収集を委託して行っている地域と違って、市直営でごみ収集を行っている地域は、郡部や市街地など道が狭く安全確保の人員が必要な地域です。そのため3人体制としています。

助け合い・支え合い…

安心のまち三田

安心・安全

市民病院の経営支援	17億 8,300万円
地域ふれあい活動の推進 (小野・高平地域の地域福祉支援室など)	4,260万円
国民健康保険会計の健全化	1億 6,800万円
予防接種を充実 (ヒブ・肺炎球菌ワクチン)	350万円
消防東分署 (市北東部の救急体制を強化)	2億 540万円 など

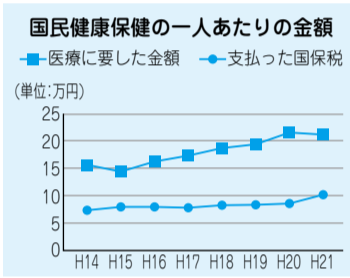


議員がきく

Q 三田市の国民健康保険会計は危機的状況にあります。新年度から4年間、一般会計から支援して、市民負担を増やさないことは大変評価しています。しかし将来、国民健康保険会計をどのように改善しようと考えていますか？

A

国民健康保険の加入者は、高齢者と低所得者が多く、国保制度自体に赤字になる要因があります。本来であれば、公平な医療や介護が受けられるよう、社会保障は国が担当すべきです。今後は県単位で国民健康保険をまとめる方向が望ましいと考えています。



議員がきく

Q 市民病院のスタッフが増えてきつつあるとはいえ、まだまだ医師や看護師不足により人工透析や病棟など患者さんにとって不便です。新年度の見通しは？

A

市民病院の医療の向上や経営安定のためには、医師・看護師を充実しなければなりません。さいわい医師は市民病院はじまって以来最高の50名を確保することができ、看護師も看護学校との提携で、確保できる見通しです。また、今年の4月から新たに5名の医師を確保できました。

まちの魅力アップ…

もっと好きになる三田

まちのPR

観光案内所 (総合案内所) の移転	2,380万円
三田市のPR映像を作成	620万円
川本幸民生誕200年事業	500万円 など



議員がきく

Q 三田が生んだ日本の化学の始祖、川本幸民。今年は生誕200年にあたります。三田の魅力とふるさと意識を高めるためには絶好の機会です。川本幸民はビールを日本ではじめてつくった人物ですので、地ビールをつくり、三田をPRしては？

A

企業に働きかけた結果、1社に手をあげていただき、「幸民ビール」をつくってもらえることになりました。22年度は試飲会などをして三田市のPRに大いに役立てていきたいと考えています。

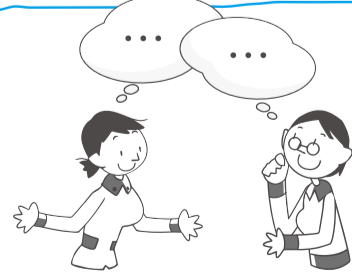
【川本幸民については、5面の用語解説参照】

22年度予算、議論の結果は？

平成22年度予算案は、予算特別委員会で審査したあと、3月定例会最終日(3月26日)において議論しました。3人の議員から、予算案の福祉・雇用対策が不十分であるとして、市長に予算案を組み替えるよう求める議案が提出されました。そのあと、表決した結果、予算の組替えを求める議案は否決、22年度一般会計予算、後期高齢者医療保険事業会計予算は賛成多数で、その他の予算7件については全員の賛成で可決しました。

反対

国民健康保険会計に一般会計からお金を繰り入れて、保険料の値上げをしないことや、ヒブワクチンの接種補助などが計上されていることは評価します。しかし、4千万円を投資する「コンビニ収納」は十分な効果が期待できません。小学生・中学生の全国学力調査についても国が抽出制に変更しています。学力調査の費用を教育の充実に使っていくべきです。



賛成

市の厳しい財政環境の中、行財政改革や基金の取り崩しなどで工夫して財源を生み出し、財政の健全化と市民生活を重視した「きめ細やかな施策」を打ち出されていることは大変評価します。22年度予算は前年度と比べ減額となっているものの、特別要因を除けば、「元気な三田」に向けた施策重視の積極型予算であり、景気が落ち込み市民生活が厳しいときに的確な予算です。

基本の施策



- ①市民のみなさんが主役のまちづくり
 - まちづくり基本条例の検討 280万円
 - 自治会への加入促進事業 30万円 など
- ②責任ある改革
 - 行財政改革の推進
 - 市税のコンビニ収納の導入4,000万円 など

議員がきく

Q コンビニで市税の支払いができる「コンビニ収納」。便利になっていいのですが、4,000万円をかけるだけの効果があるのでしょうか？

A

他市の状況を見ると、コンビニ収納は金融機関が閉まっている時間帯の利用が64%に達しています。時間がない方への利便性が高まることで、市役所から督促する件数も減り、経費削減につながります。特にコンビニは全国にあるので、転出された方の収納率が高まります。



子育てに夢を…

未来につなぐ三田

子育て・教育

地域子育て創生事業 (夜間・休日の子育て相談、子育て情報ひろば設置など)	2,610万円
認可外保育施設の支援	320万円
子ども手当 (子ども1人月13,000円)	21億 4,500万円
妊婦健診の助成 (14回の健診に7万円を上限に助成)	5,200万円
子ども学力調査 (全国学力テストの全児童実施)	320万円 など

議員がきく

Q 乳幼児健診を受けていない子どもの数はつかんでいますか？また、未受診の子どもへの対応について、虐待防止の観点から対応は考えていますか？

A

乳幼児健診は、4か月、9か月、1歳6か月、3歳の4回行っています。平成20年度では、対象者3100人のうち、未受診の子どもは500人でした。この子どもたちの家庭には、市の保健師が家庭を訪問し、必要であれば支援します。また、新年度から休日や夜間にも子育て相談窓口を開設するなど、こども課の子育て支援体制をさらに充実します。



市民生活重視とされた予算ですが、市民の皆さんの暮らしに届くのか、議長をのぞく23人の議員が市長(左)に聞きました。

特集

新年度予算にたくす 三田の未来

景気回復も定かでない、環境問題や少子高齢化など多くの課題をかかえる日本。でも、だからこそ、現実をしっかりとらえ、すすんで行動する三田市でありたい。とりわけ、家族や地域のきずなが弱くなっている今、「共に生き、共に支え合い、共に歩む」人が中心のまち三田をつくりたい。こんな願いをこめた平成22年度予算が、市長から議会(3月定例会)に提案されました。



議員がきく

Q 子ども学力調査について、国が全国学力調査を抽出制にしたのに、どうして三田市では全児童を対象に調査するのですか？結果の利用方法は？

A

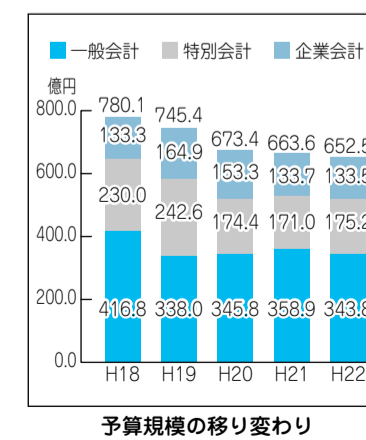
抽出制では、小学校は11%、中学校は15%の児童・生徒でしか調査が行えません。全国学力調査は生徒・児童の学力の状況をよく判断できるため、三田市では対象学年の全員の調査を行いたいと考えています。調査結果をもとに、各学校ごとの課題や問題点を洗い出し、学校ごとに学力向上改善プランを作成。授業内容の改善を図ります。

収入(市税)は減り、貯金も取り崩し

しかし、今年度は急激な景気悪化の影響を受け、個人所得の減少が見込まれています。市税は前年度予算と比べ3%(5.1億円)も減収の予算となっています。そのため、市の貯金(財政調整基金)を6億9千万円取り崩すことになっています。

創意工夫で財源を

景気回復が見えないなか、さらに収入が落ち込むことも予想されます。三田市では、行財政改革を行うことで、財源を生み出します。22年度予算では、職員数を減らしたり、事務を見直したりすることなどで、1億6千9百万円を削り、予算として使っています。なお、20年度から22年度の間で、12億円の財源を行財政改革により生み出しています。



市民生活重視の積極型

22年度の三田市の一般会計、特別会計、企業会計予算の合計は、652億5千万円で、前年度と比べ、1.7%減少しています。しかし、特別な要因をのぞくと、2.3%の増額となります。市民のみなさんの生活に関係するところでも多くの事業が組まれていることが22年度予算の特徴になっています。

平成22年度の三田市予算